Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名：景気動向指数（2010年６月）

～ＣＩ一致指数の改善ペースは鈍化～

発表日：2010年８月６日(金)

第一生命経済研究所　経済調査部
担当　主任エコノミスト 新家 義貴
TEL:03-5221-4528

○ ＣＩ一致指数は回復ペースの鈍化が明確に

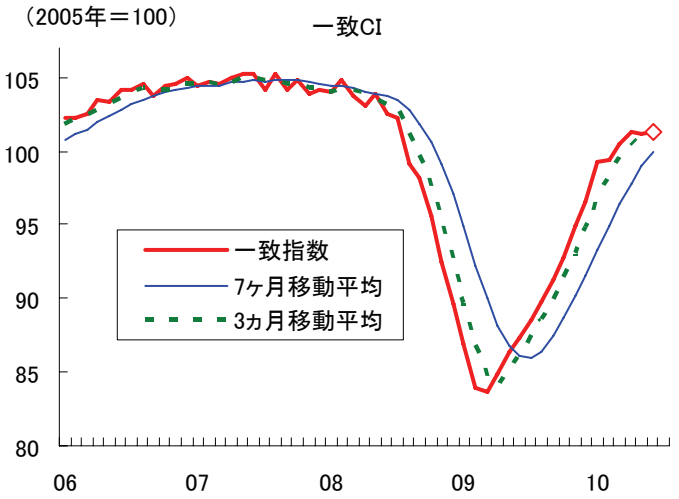
８月６日に内閣府から公表された10年６月の景気動向指数では、ＣＩ一致指数が前月差＋0.1ポイントとなった。プラスではあるものの、５月（同▲0.1ポイント）に続いてほぼ横ばいの動きにとどまっていることに加え、３ケ月移動平均の前月差を見ても、ピークだった2010年１月の2.17から、６月は0.27にまで鈍化しており、回復ペースの鈍化が明確になっている。このところ中国向けを中心として輸出が減速していることや、エコカー減税・補助金、エコポイント制度といった耐久財購入補助政策の効果が弱まりつつあることなどを背景に、生産の増勢が弱まっていることが影響しているとみられる。季節調整の問題などもあって基調が読みづらくなっていることは確かだが、総合的に見て景気が減速に向かっていることは確かだろう。ＣＩ一致指数の内訳を見ると、鉱工業生産指数や生産財出荷指数はマイナスに寄与したが、有効求人倍率や投資財出荷指数などがプラスに寄与した。

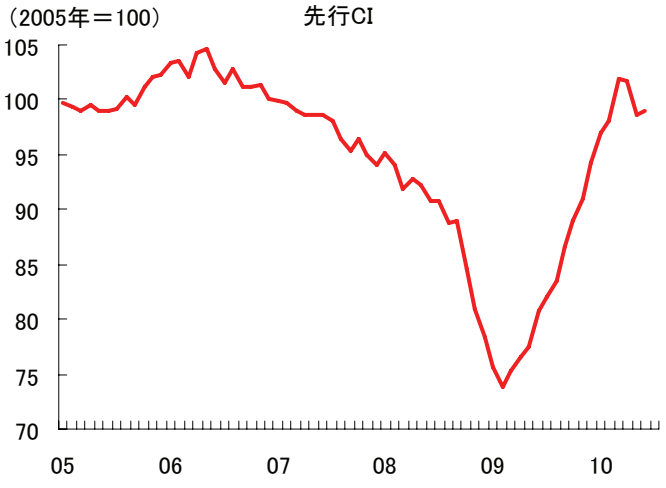
なお、ＣＩ一致指数は５、６月に足踏みしているが、３ケ月移動平均では引き続き上昇が続いていることから、内閣府によるＣＩ一致指数の基調判断は「改善を示している」が維持されている。

○ ＣＩ先行指数は頭打ち感が強まる

ＣＩ先行指数は、前月差＋0.3ポイントと３ケ月ぶりに上昇した。もっとも、５月に同▲3.1ポイントと大きく低下した後であることを考えると、むしろ弱めの結果だろう。実際、３ケ月移動平均の前月差は▲1.0と、2009年３月以来15ヶ月ぶりに低下しており、頭打ち感が強まっている。

消費者態度指数、新規求人数、鉱工業生産財在庫率などがプラスに寄与する一方で、日経商品指数（前年同月比）、東証株価指数（前年同月比）、長短金利差などがマイナス寄与となった。足元のＣＩ先行指数は、採用系列の一部で前年の裏が出ている影響で実勢よりも低く出やすくなっている 点には注意が必要だが、そうした点を考慮しても弱めの動きが目立ってきている。景気の先行きを展望する上での懸念材料だろう。





（出所）内閣府「景気動向指数」

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。